ポケット版 (水路トンネル編)

農業水利施設の機能保全に関する 調査計画の参考資料 (案)

[水路トンネル編] ポケット版

平成30年3月

【ポケット版作成に当たっての基本方針】

- ◇適用範囲は機能診断調査における「現地踏査」、「現地調査」とし、現場での作業に 関する事項に特化した内容とする。
- ◇ストックマネジメントを初めて担当する人にもわかりやすい構成と内容とする。
- ◇写真やイラストなど視覚面での見やすさと現場での使いやすさを考慮する。
- ◇基本事項のみではなく、現場での実務を実現するための情報として「現場での留意点」、「現場での一工夫」、「取りまとめ事例」、「調査に役立つ参考資料」等を【ポイント!】として示す。

ポケット版の基本構成

■項目

・記載する項目を大きく記載

【概要などのコメント】

・項目に関する概要等を箇条書きで簡潔に記載

【写真、イメージ図など】

・説明用の写真やイメージ図等を示す

【ポイントや参考】

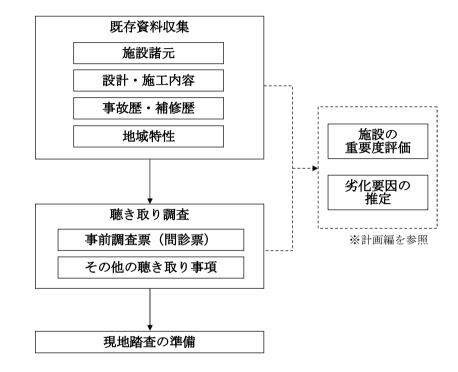
- ・現場での留意点
- 現場での工夫
- ・取りまとめ事例
- ・調査に役立つ参考資料(調査機器・変状写真など)

水路トンネル編(ポケット版) 目次

| 1. | 哥 | 事前調査 | |
|----|------|--------------------|----|
| 1 | l. 1 | 既存資料収集 | 3 |
| 1 | 1. 2 | ? 事前調査票(問診票) | 4 |
| 1 | 1. 3 | 3 その他の聴き取り事項 | 5 |
| 1 | 1. 4 | l 現地踏査準備 | 5 |
| 2. | IJ | 見地踏査 | 7 |
| 2 | 2. 1 | 現地踏査票 | 9 |
| 2 | 2. 2 | 2 写真撮影 | 12 |
| 2 | 2. 3 | 3 位置出し | 13 |
| 2 | 2. 4 | ↓ 変状の確認 | 14 |
| 2 | 2. 5 | 5 特記事項 | 15 |
| 2 | 2. 6 | 6 現地調査箇所(定点選定) | 16 |
| 2 | 2. 7 | / 詳細調査箇所 | 21 |
| 3. | IJ | 見地調査(近接目視と計測) | 22 |
| 3 | 3. 1 | 現地調査の体制 | 30 |
| 3 | 3. 2 | 2 現地調査のポイント | 31 |
| | | 3.2.1 調査の視点 | |
| | | 3.2.2 事前準備作業 | |
| | | 3.2.3 チョーキング及び写真撮影 | |
| 3 | 3. 3 | 3 変状項目 | |
| | 3 | 3.3.1 ひび割れ | |
| | 3 | 3.3.2 ひび割れ以外の変状 | |
| | 3 | 3.3.3 圧縮強度 | |
| | 3 | 3.3.4 中性化深さ | |
| | 3 | 3.3.5 変形・歪み | 48 |
| | 3 | 3.3.6 周辺地盤の変状 | 49 |

1. 事前調査

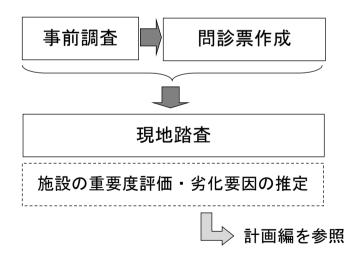
・事前調査は、下図のフローを参考に実施する。



- 事前調査の目的は、
 - ① 【施設の概要・問題点】を把握すること。
 - ②【劣化要因の可能性の判定・評価】を行うこと。

事前調査の目的

- ①施設の概要・問題点の把握
- ②劣化要因の可能性の判定・評価
- 事前調査(問診)結果に基づき事前調査票(問診票)を 作成する。
- ・事前調査票(問診票)は、現地踏査のための基礎資料。



1.1 既存資料収集

- 下表の資料を収集することが望ましい。
- ・施設の基本情報や補修等履歴、既往の機能診断結果等は 農業水利ストック情報データベース(DB)も活用する。

| | 情報 | の種類 | 参考資料 | | | |
|----------|-----------------|--------------|-------------------|--|--|--|
| 事業の目的・経緯 | | | 工事誌・事業誌 | | | |
| | 争耒(| クロの・経緯 | 事業情報(DB を確認) | | | |
| セセー | | | 設計書・出来高図面 | | | |
| 施設諸 | | | 施工内容 | | | |
| 諸 | 故伝≡ | 设量の把握 | 施設管理台帳 | | | |
| 兀 | JJ C a | 文里の指揮 | 土地改良区管内図 | | | |
| | | | 土地改良区パンフレット | | | |
| | | | 施設基本情報(DB を確認) | | | |
| | | | 土地改良施設維持管理適正化事業記録 | | | |
| | 毎€几∕へ | 補修履歴 | 期間水利施設管理事業記録 | | | |
| | 心ですり | 州 沙俊芷 | 災害復旧事業記録 | | | |
| | | | 補修等履歴情報(DB を確認) | | | |
| | | | 総代会議事録 | | | |
| | 施設の | 日常管理 | 日常点検票 | | | |
| | | | 維持管理情報(DB を確認) | | | |
| | 佐売の総 | 能診断結果 | 既往の機能診断報告書 | | | |
| | 心での残 | 比砂凼和未 | 機能診断情報(DB を確認) | | | |
| | | 取水量• 通水量 | 頭首工操作規則 | | | |
| | 供用状況 | 双小里 也小里 | 水利使用規則 | | | |
| | が出れが | 水質 | 既往調査結果 | | | |
| そ | | 土砂混入状況 | 既往調査結果 | | | |
| の | の 一四四点 地質条件 | | 地質図・航空写真 | | | |
| 他 | 円用以以 | 周辺利用 | 古地図・古い航空写真 | | | |
| | | 塩害の可能性 | 地形図 | | | |
| | 地域特性 | 凍害の可能性 | 地形図 | | | |
| | | ASR の可能性 | 地形図と施工記録 | | | |

1.2 事前調査票(問診票)

・施設管理者に対する聴き取り調査を実施し、事前調査票 (問診票)を作成する。

該当する番号にO印をつける

| g | 隆理番号 | 1912001 | | 調査年月日(今回) | 平成 23 年 1 | 0 B 1 B | | | |
|-----------------------------|--|--|----------------------------|-------------|-----------|--------------|--|--|--|
| | 也区名 | R地区 | | (前回) | 平成 年 | 月日 | | | |
| 施 設 名 w水路トンネル 記入者 ○○コンサル㈱○○ | | | | | | | | | |
| - | 工形式**1 | | (b)鉄i | 筋コンクリート覆工 | (c)坑口 | (11) | | | |
| 1,00 | 項目 | | 異常の有無、内容 ^{※2} 異常能 | | | | | | |
| | 1. 異常有り ① 覆工が崩落している ②インパートが盤膨れしている ③ 覆工が変形している ③ 覆工が変形している ④ コンクリートの欠損、剥落、多数のひび割れが見られる ⑤ 漏水痕跡がある ⑥ その他の異常が見られる (② 異常無し 【特記】 | | | | | | | | |
| 構造上の変状 | 継目部 | 1. 異常有り ①継目部の欠損、ずれ、段 ②継目部のずれ、段差が見 ③その他の異常が見られる 2. 異常無し 【特記】 | られる | しく、漏水の痕跡がある |) | | | | |
| | トンネル 上部地盤 | ①土地利用の変化(②近接施工の有無(3 異常無し 【特記】 | | ている |) | ↑ | | | |
| 水理・水利用 | 通水性 | 1. 異常有り ①所定の通水量が確保でき ②通水量が安定しない(管 ③)漏水が発生している ④トンネル内の異常積砂 ⑤側壁・インバートへの水 ⑥その他の異常が見られる 2. 異常無し 【特記】 | 理が難 生生物 | | | 測点もしくは大まかな位置 | | | |
| 上の異常 | 水位の維持 | 1. 異常有り ①水位の異常上昇が見られ ②水位の異常低下が見られ ③水位が安定しない ④その他の異常が見られる ②. 異常無し 【特記】 | る | |) | を記入 | | | |
| | 通水期間 | 1. 非通水期間であるため断水 2. 通水期間中である(通水期 3. 通年通水のため断水できな | 間: | ~ | |) | | | |
| 確認 | 残水状况 | (1.)自然流下によりトンネル内 2. トンネル内に残水有、ポン | | | |) | | | |
| 認事項 | 機材等の搬 | (1.)人肩で可能である | 2. クレーン等が必要である | | | | | | |
| | 過去の調査乳 | (1.調査実績なし 2 調査実績あり(留意点: | | | |) | | | |
| | 特記事項 | | | | | , | | | |
| .×1 . ₹ | まて 形十 小 へ 口 | を付けて 該当する項目について問 | みよっ | | | | | | |

※1:覆工形式の〇印を付けて、該当する項目について問診する。

※2:異常の有無、内容は、該当する番号に○印をつける。

※3:異常個所は、測点、又は大まかな位置を記入する。

1.3 その他の聴き取り事項

- ・事前調査票(問診票)と併せて、以下の項目を聴き取る ことが望ましい。
- ・水利用・水理上の異常については、必要に応じて別途水利用機能・水理機能の問診票の例等を活用する。
 - ①重点的に踏査・調査を行うことが望ましい箇所
 - ②調查可能時期(通水時期)
 - ③事故等による社会的影響(重要構造物の有無・第三者 被害が生じる可能性が高い箇所)
 - ④過去の事故発生時の状況(事故原因・事故への対応)
 - ⑤対策に対する要望

1.4 現地踏査準備

- ・現地踏査に向け、既存資料の収集・聴き取り調査の結果から、以下の項目を確認する。
- ①施設の通水状況・踏査可能時期
- ②重点的に踏査する箇所(重要構造物付近、過去の事故 発生箇所)
- ③既往の機能診断箇所

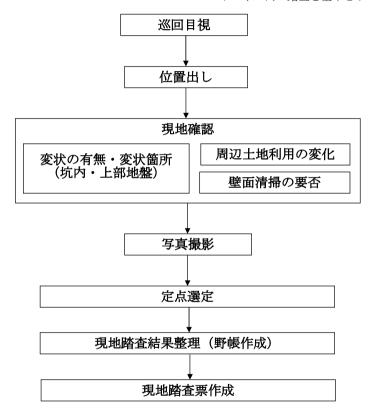
参考 水利用・水理機能の問診票の例

| | | | and to be an ex- | | | | | | |
|-------|---------------|--|----------------------|--------|-------|--|--|--|--|
| 整理番号 | | 1912001 | 調査年月日 | 平成 年 | 月 日 | | | | |
| 坦 | 也区名 | R地区 | R地区 記 入 者 ○○コンサル | | | | | | |
| 対 | 象施設名 | w水路トンネル | 形態 | 水路トンネル | • | | | | |
| 機能 | ・性能項目 | 異常の有無、内 | 容 | | 異常個所 | | | | |
| 水利用機能 | 保守管理 • 保全性 | 1 異常あり ・日常的な保守管理に要する費用や労力が増 ・保守管理に必要な施設(坑口までの管理用 不足している 2. 異常なし 【特記事項】 ・除塵設備の破損により塵が流入し、維持管 | 道路、除塵(スク | | 3 号支線 | | | | |
| 水理機能 | 通水性 | 1. 異常あり ・所定の流量流下時に不安定な流況が生じる ・所定の流量流下時に余裕高が不足する(天・水路の沈下や変形、異常堆砂等により、安・ ・漏水が生じている(又は漏水が疑われる個・必要な水位が確保できていない 2. 異常なし 【特記事項】・日地部から漏水が生じている | 端付近まで水位か で全に水が流れな | | 1 号支線 | | | | |
| HL | 放余水性 | 1. 異常あり ・放流施設の不具合により豪雨、洪水時等の ・余水放流施設が不足している 2. 異常なし 【特記事項】 | 余水放流が適切 | にできない | 2号支線 | | | | |

2. 現地踏査

・現地踏査は、下図のフローを参考に実施する。

※水路トンネルの現地踏査は トンネル内の踏査を基本とする。



- ・現地踏査は、基本的に水路トンネル坑内で実施する。
- ・水路トンネル上部、周辺状況も確認する。
- 現地踏査の目的は、
 - ①【変状の有無や変状箇所】を把握すること。
 - ②【現地調査に向けた確認】を行うこと。



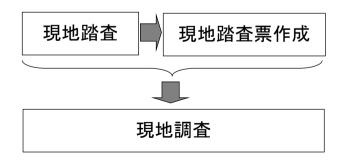
①変状の有無・変状箇所の把握

構造物(水路トンネル坑内)の変状

水路トンネル上部の変状

周辺土地利用の変化

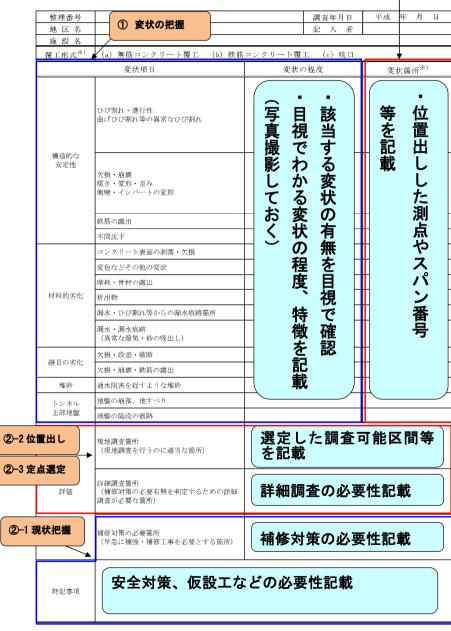
- ②現地調査に向けた確認
- ②-1 現状把握
- ②-2 位置出し
- ②-3 定点選定
- ・ 踏査結果に基づき現地踏査票を作成する。
- ・現地踏査票は、現地調査のための基礎資料。



2.1 現地踏査票

・現地踏査結果に基づき現地踏査票を作成する。

②-2 位置出し



• 現地踏査票記載例

整理用のため記載は任意

ここではストックDBの施設IDとしている

| 整理番号 | 020₹100040008 | 調査年月日 | 平成 年 月 日 | |
|---------------|---|----------------|----------------------|------------------------|
| 地区名 | S地区 | 記 入 者 | | |
| 施設名 | K幹線 (測点 No. 0~ | No. 40+2. 5 | 5) 延長 L=2, | 002.5m |
| 位置情報 | X=0000.000 Y=\D\D\D\D\D\D | ΔΔΔ | | |
| 覆工形式*1 | (a) 無筋コンクリート覆工 (b) 鉄角 | 第コンクリー | ト覆工 (c) 坑口 | |
| | 変状項目 | 変物 | 犬の程度 | 変状箇所**2 |
| | ひび割れ・進行性 曲げひび割れ等の異常なひび割れ | ・ひび割れ ・横断方向 | いあり 可のひび割れ | • 測点 No. 5 付近 |
| 構造的な 安定性 | 欠損・崩壊 傾き・変形・歪み 側壁・インバートの変形 | ・なし | | |
| | 鉄筋の露出 | ・対象外 | | |
| | 不同沈下 | ・なし | | |
| | コンクリート表面の剥落・欠損 | ・なし | | |
| | 変色などその他の変状 | ・なし | | |
| +++1014474414 | 摩耗・骨材の露出 | ・粗骨材置 ・全体的に | | ・側壁流水部 |
| 材料的劣化 | 析出物 | ・あり(ク | フラウン) | ・測点 No. 5 付近 |
| | 漏水・ひび割れ等からの漏水痕跡箇所 | ・あり (値 | 壁) | ・測点 No. 2+10 |
| | 漏水・漏水痕跡 (異常な湿気・砂の吸出し) | ・あり(作 | 心壁) | ・測点 No. 2+10 |
| 継目の劣化 | 欠損・段差・破断 | ・なし | | |
| 継目の为化 | 欠損・崩壊・鉄筋の露出 | ・なし | | |
| 堆砂 | 通水阻害を起すような堆砂 | ・堆砂あり ※通水阻割 | | ・インバート |
| トンネル | 地盤の崩落、地すべり | ・なし | | |
| 上部地盤 | 地盤の陥没の痕跡 | ・なし | | |
| | 現地調査箇所 (現地調査を行うのに適当な箇所) | (変状が異 | (著なスパン) 近スパン番号 | ペン番号 12、30 100 |
| 評価 | 詳細調査箇所 (補修対策の必要有無を判定するため の詳細調査が必要な箇所) | | | とめ詳細調査は不要 寺に必要性があれば |
| | 補修対策の必要箇所 (早急に補強・補修工事を必要とする 箇所) | ・なし | | |
| 特記事項 | ・水路内への進入のために仮設足 ・壁面に汚れ(薬等)があるため | | | 要。 |

10

• 現地踏査票の基本情報

| 項目 | 備考 |
|-------|-----------------------|
| 整理番号 | ・整理用の任意の番号(省略可能) |
| | ・国営施設の場合、ストックDBの施設ID |
| | 等を用いても良い |
| 調査年月日 | ・現地踏査時の年月日を記載 |
| 記入者 | ・所属する組織名を記載 |
| | (〇〇コンサルタンツ㈱など) |
| 地区名 | ・地区名を記載 |
| | ・国営施設の場合、ストックDBに登録され |
| | ている地区名を記載 |
| 施設名 | ・施設名を記載 |
| | ・国営施設の場合、ストックDBに登録され |
| | ている施設名を記載 |
| 位置情報 | ・施設の位置情報(座標など)を記載 |
| 写真番号 | ・添付する写真番号を記載 |
| | ・写真撮影の留意事項③「2.2 写真撮影」 |

2.2 写真撮影

- 撮影した写真に番号を付して整理する。
- ◇撮影手法は各地点で統一する。
- ◇全景・左岸・右岸のセットを基本とする。
- ◇内空断面がわかるようにスタッフやポールを入れる。
- ◇ホワイトボードや黒板の内容が読めるようにする。
- ◇変状の全景と近景を撮影する。





- ◇土地利用状況に変化があった場合は状況を撮影する。
- ◇変状の有無、発生箇所(☞「2.3 位置出し」参照)などを出来高図面等に記録する。

2.3 位置出し

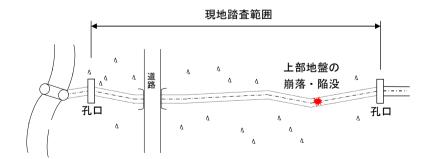
- ・ 原則として全路線踏査により実施する。
- ・距離計または巻尺を用いて、覆工面にスパン番号(SP. 〇〇等)または距離表示(10m間隔等)を示す。
- 記載にはチョークまたはスプレーを用いる。



ポケット版(水路トンネル編) ポケット版(水路トンネル編)

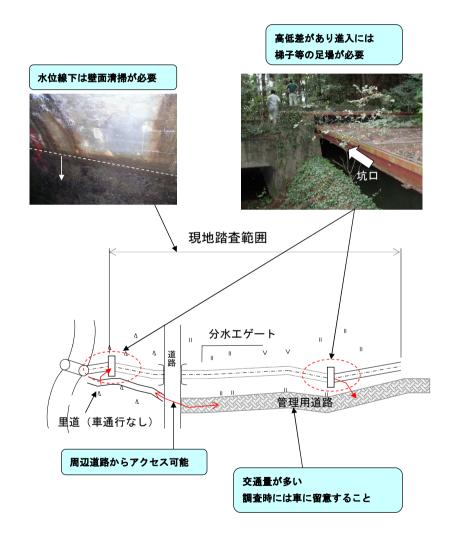
2.4 変状の確認





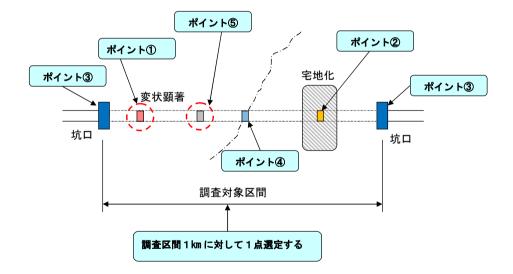
2.5 特記事項

・施設の周辺や壁面の状況を把握し、安全対策、壁面清掃等の必要性を判断する。



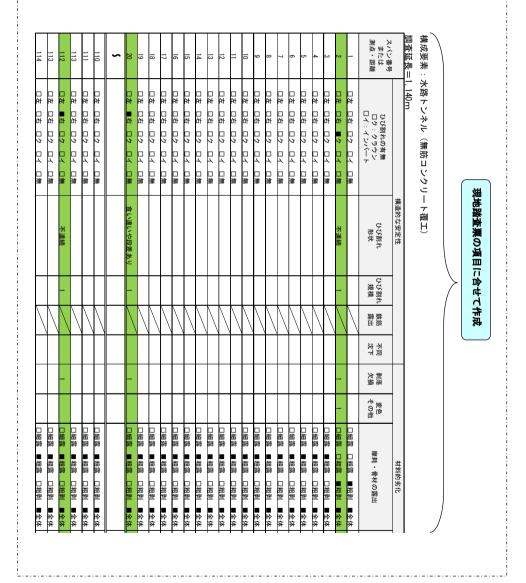
2.6 現地調査箇所(定点選定)

- 下記のポイントを踏まえ定点を選定する。
- ・調査が2回目以降の場合、過去の定点を活用する。
- ①変状が顕著な箇所
- ②重要構造物等に近接する箇所
- ③構成要素が異なる区間(各1点)
- ④周辺地山を構成する地層帯の境界部
- ⑤対象路線を代表する標準的な区間



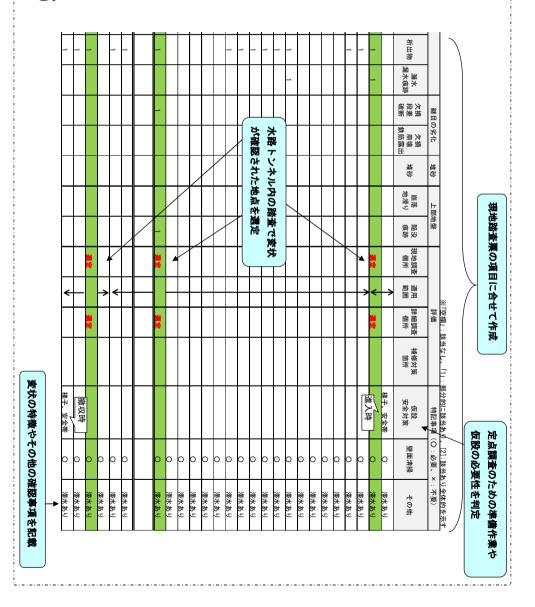
参考 現地踏査に用いる野帳(例) 1/2

事前に以下のような野帳を作成しておくと現場での作業が効率的に 進む。

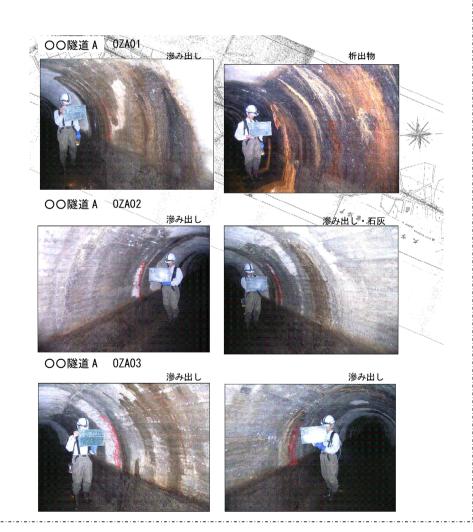


参考 現地踏査に用いる野帳(例)2/2

• 事前に以下のような野帳を作成しておくと現場での作業が効率的に進む。

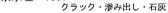


参考 現地踏査結果図 (例) 1/2



参考 現地踏査結果図(例)2/2

余水吐 Y001

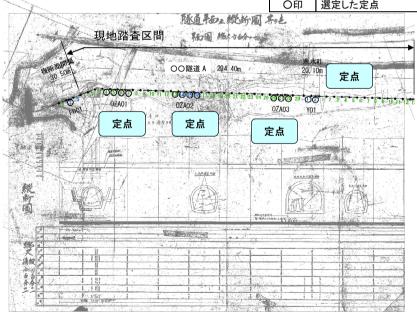








| 区分 | 状 態 |
|----|---------|
| 赤 | 顕著な変状あり |
| Ħ | 変状あり |
| 緑 | 軽微な変状あり |
| 黒 | 変状なし |
| 〇印 | 選定した定点 |



詳細調査箇所

・ 詳細調査は選定した定点で必要に応じて実施する。

【詳細調査の目的】

- ① 支配的な要因の特定
- ②変状の程度・劣化の過程の把握

詳細調査事例

• 反応性骨材分布域で亀甲状のひび割れを確認した場合の 詳細調査実施事例。

(1)調査結果より発生している変状を把握

ゲルを伴う亀甲状のひび割れ確認。



②岩石学的試験より反応性骨材の有無、量を把握

アルカリシリカ反応性の岩石(チャート)を多量に含む。



③促進膨張試験より有害な膨張率の有無を把握

カナダ法により、試験開始後14日間での膨張量が0.20%以上。



④ASRに対して有害か無害かを判定

膨張率が 0.20%以上であり、「潜在的に有害な膨張率」と判定。

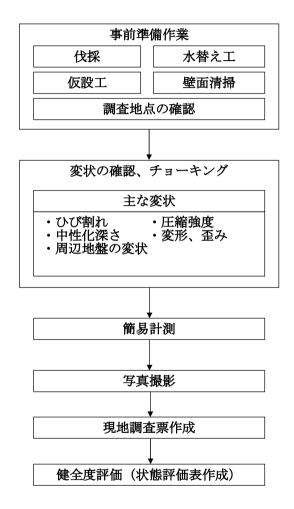


⑤変状の状態・規模より劣化進行過程を決定

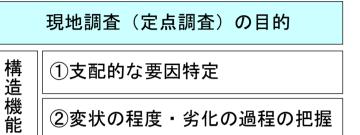
アルカリシリカ反応の劣化過程の特徴を考慮し、「Ⅱ進展期」を 選定。

3. 現地調査(近接目視と計測)

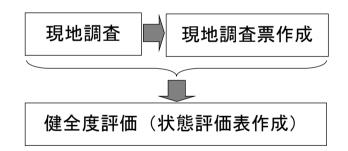
• 現地調査は、下図のフローを参考に実施する。



- 現地調査の目的は、
- ①【支配的な要因】を特定すること。
- ②【変状の程度・劣化の過程】を把握すること。



- ・調査結果に基づき現地調査(定点調査)票を作成する。
- ・現地調査票は、健全度評価のための基礎資料。



名 M 地区 名 T 水路トンネル

泗

盟

無筋コンクリート覆工形式の水路トンエルの施設状態評価表 (2/3

| | | | | 製 困 | 먥 | ₹ | | | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------|--------------------|-------------|--------------------------|---------------|-----------|--------|-----------|---------------------|----------|-------------------|--------|
| | | 整治物 自体の 女 禁む おなん | | | | | | | | | | |
| 圧縮強度 | | | | | | ひび割れ以外の劣化 | | | | ひび割れ | | |
| (下級語序接管) 反発硬度法 (下級語序接管) 医発硬度法 | 悉悉 | が事がで、タントング | B # . 4 - 5 | ()う物名のもほ号を小幅介の) (| 麥峰· 鞭隆 | 辛赴 | 奏符す帰ΩΩ | ひび割れからの漏水 | ひび割れ付随物 (析出物、浮き) | ひび割れの有無 | 健全度ランク | 評価項目 |
| 18N/mm2以上 (設計基準強度比100%以 | 浦 | | 無又は 着骨 材料 田 | 無又は部分的 注2) (S-4の場合以外) | # | 淮 | 淮 | 淮 | 潍 | 淮 | S-5 | |
| 13N | 洗掘深が覆工厚の 1/3未満 | 全体的の場合、 | 粗骨材露出 | 全体的 注2) | 部分的 注2) | 部分的 注2) | | 滴水 | 曲 | 部分的 注2) | S-4 | 雪平 |
| 13N/mm2未満 (設計基準強度比75%未 | 洗掘深が覆工厚の 1/3以上~1/2未満 | 全体的の場合、1ランクダウン 注9) | 粗骨材剥離 | | 全体的 注2) | 全体的 注2) | | 流水、噴水 | | 全体的 注2) | S-3 | 評価区分 |
| 1) ZW.T | 洗掘深が覆工厚の | | | | | | 有 | | | | S-2 | |
| S-5 | | | o L | , | | | | 0 | <u> </u> | | 変状別 評価 | |
| | | | | | S-2 | | | | | | 主要因別 評価 注4) | 評価の流れ→ |
| | | | | | S-3 | | | | | | 施設状態 評価 注7) | 1 |

無筋コンクリート覆工形式の水路トンエルの施設状態評価表 (1/3)

外部要因

その他の変状

(評価の流れにおける、主要因別評価及び施設状態評価の判定の考え方

スプリングラインの縦断方向のひび割れが段差を伴うことからS-2評価となるが、S-2評価は、天端の段差や食い違いあるいはインバートの盤膨れが発生する等の変状が構造物全体に及んている状態を指すことであり、今回確認された変状はスプリングラインのみで天端やインバート部などの構造物全体に変状が見られないことから、エンジニアリングジャッジにより評価をS-3とした。

水路トンネルの現地調査(定点調査) 薫 (1/3)

| | | | | 水路ト | ンネルの現均 | 也調査 | E(定点 | 調査)祟 | Į (1 | /3) | | | |
|-------------|-----|----------|------------------------|--------------|-------------|------------------|--------------------|-------------|-------|-------------------------------|--------|----------|------|
| 整理番 | 号 | | 1812 | | | | 調査年月日 | | | 平成25年12月3E | 3 | | |
| 地区名 | | | R地区 | | | | 記入者 | | | 〇〇コンサルタン | ツ(株) (| 00 00 | |
| 施設名 | i | | M水路トンネル | ı | | | | | | | | | |
| 定点調 | 查番 | 号 | 1801 | | | | 調査地点(測 例:No.O+O | | | No.5+0.5~No.0 | 5+12.0 | 5 | |
| 土被り | | | 10.0 | m (トンネル掘削径 | : 2.9 | | | | | | | | |
| 覆工形 | 式 | | (a)無筋コンク | ツート覆工 | (b) 鉄筋コンクリー | を | | (c)坑口 | | | | | |
| 劣化要 | | | | 劣化要因 | | | 評価 | 特記事項(可 | 可能性 | のある劣化要因等) | | | |
| の推定 (劣化) | | | 塑性圧(◎・○・/ | △・なし) | | | Δ | | | | | | |
| 推定表 | | 外部 | 緩み圧(◎・○・/ | △・なし) | | | Δ | | | | | | |
| る) | | I | 偏圧(◎・○・△・ | ・なし) | | | Δ | | | | | | |
| | | | 摩耗風化(○・△ | いなし) | | | 0 | | | | | | |
| | | | 中性化(〇・△・7 | なし) | | | Δ | | | | | | |
| | | 内 | ASR(O・△・なし | .) | | | Δ | | | | | | |
| | | 部 | 凍害(○・△・なし | _) | | | なし | | | | | | |
| | | | 塩害(○・△・なし | _) | | | なし | | | | | | |
| | | | 化学的腐食(O· | ・△・なし) | | | なし | | | | | | |
| 調査部 | 位 | 規格 | | | | 調査施 | 設概要図 | | | | | | |
| | | | R=2.90m | | | | | - | | 2.90m 1.45m 2.90m ンネル断面 | | | |
| デー | -9 | スケ | ッチ | | | y 5 | n [| なし | | No. | | | |
| 整理No. 写真 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 変 | 状 項 目 | | 変状の状態・程度 | | | | | | | |
| | | 構造 | 的な安定性評価 | (I評価)【無筋·鉄筋】 | | | | | | I-5 | | | |
| \bot | ١. | ひび | 割れ段差 | | | b | n 🔽 | なし | | | | | |
| | (| | | | | v | び割れ無し | ひび割れ | あり | 開口ひび割れ | ı | | |
| 測定 | П | | | | 無筋 | □ 圧ざ性ひび割れ・段差ひび割れ | | | | | | | |
| 方法 | П | | 割れ最大幅 | | | 部 | 分的 | 全体的 | | | | | |
| 刀巫 | ע | ※(環均 |)の値は厳しい腐食 竟の場合に適用する | ₹ る。 | | U | び割れ無し | | | | | | |
| # | 1 | | | | 鉄筋・坑口 | ▼ 0.2mm未満 | | | | | | | |
| P. 35 | П | | | | | (0. | 2mm未満) | (0.2mm | 以上~ | ~0.6mm未満) | (| 0.6mm以上) | |
| | П | | | | • | | | | | 実測値 | | 0.10 | (mm) |
| | l | 最大 | 幅ひび割れの延: | Ę | | | | | | | | 1.5 | (m) |
| \top | | | | 1.曲げによる不連続な | なひび割れ | b | n | ン なし | | ひび割れ最大幅 | | | (mm) |
| | | | | 【無筋】 | | 全 | 体的 | | | | | | |
| | | | | 2.せん断による食い | 崖いや段差のあるひ | あ | n | 少 なし | | ひび割れ最大幅 | | | (mm) |
| ひび割 | れ | | | び割れ【無筋】 | | 全 | | | | | | | |
| | | | | 3.継目間中央や部材 | 解放部の垂直ひび | a | | ✔ なし | L | ひび割れ最大幅 | _ | | (mm) |
| | | 7 | び割れタイプ | 割れ【鉄筋】 | | | 体的 | | Ц | 判断方法 |) | | 1 |
| | | | ※複数指定可 | 4.特徴的な形状を示 | さないひび割れ | b | n e | なし | ⊁ | | . | | (mm) |
| | | | | 【鉄筋】 | | 全 | | | Ц | ⇒ P. 37~4 | 1 | | 1 |
| | | | | 5.格子状・亀甲状など | そのひとなり | b | | ✓ なし | | O O D71 PAX 7 CIM | | | (mm) |
| | | | | 【鉄筋】 | > 0.0.0110 | 全 | | | _ | | | | |
| \bot | | | | ļ | | 1= | しい腐食環境 | | ⊢ | | | - | |
| 判定 | | | | 6.鉄筋に沿ったひび割 | 別れ【鉄筋・坑口】 | √ δ | | しなし | _ | ひび割れ最大幅 | | | (mm) |
| | _ | | W. CALES CO. | | | 全 | | | | | | | |
| 方法 | K . | _ | 性(前回との変化 | | | a | | ∠ なし | | | | | |
| # | _ | _ | | れ幅0.2mm以上)【鉄 | 筋・坑口】 | 部 | | | _ | 全体的 | V | なし | |
| P. 42 | | _ | 割れ付随物(析出 | 1物、錆汁、浮き) | | √ 5 | | | Ţ, | il ** ** | | 1+1 | |
| | | 7 K 7 1 | キロれ かんの浄水 | | | | 州1. 電水站 | | 1 1 2 | ⇔7K R#C7K | 100 | | |

無筋コンクリート覆工形式の水路トンエルの施設状態評価表 (3/3)

注1)本表は、無筋コンクリート覆工の水路トンネルにおける基本的な評価項目と評価区分を示したものであるため、必要に応じて評価項目の追加や評価区分の設定を行うこと。
注2)「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
注3)「周辺地盤の変状」などにおける「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
注4)変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
注5)S-1の評価は、この評価表によらず評価者が技術的観点から個別に判定する。
注6)圧縮強度及び化学的腐食の調査は、必要に応じて実施する。
注7)主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。 (8∄ 圧縮強度及び化学的腐食の調査は、必要に応じて実施する。
主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。
主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。
なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これらを考慮して評価する。
評価の判定の考え方の欄には、「変状別評価」から「主要因別評価」を下すもととなった変状別評価項目、及び「主要因別評価」から「施設状態評価」を下すもととなった主要因別評価項目を記入し、その判定の考え方を記述する。特に、最も健全度が低い評価項目が複数ある場合には判定の考え方が明確となるよう留意すること。
摩耗・すりへりの1ランクダウンについては、水理機能・水利用機能に支障がなく、他の変状別評価項目がS-4以上であれば、1ランクダウンは行わないものとする。

26 27

水路トンネルの現地調査(定点調査)票(2/3)

| | 变状 | 類目 | W | 変状の状態・程 | | _ | |
|------------------|-----------------|------------------------|--|-----------------------|--------|--------------|---------------------|
| | | | ※いずれか該当するチェックポックスに印 | | 1.を配入す | · • • | |
| 不同沈下 | 構注 | 告物の沈下・蛇行 | ✓ 局所的(施設の一部のみで発生)✓ 全体的(変状が構造物全体にある) | コなし | |)的」「全体的」 | |
| | | | ☑ 局所的(施設の一部のみで発生) | コなし | 判断 | 方法 ⇒ P.42 | |
| | | 継目の開き | └ 全体的(変状が構造物全体にある) | | | 1.0 | (mm) |
| | 4 | | □局所的(施設の一部のみで発生) | ⊋ なし | | | |
| | #A | 迷目の食い違い | 全体的(変状が構造物全体にある) | | | | (mm) |
| 継目 | | 止水板の破損 | [∡] あり | なし | | 1 | (箇所) |
| | 似土口 | からの漏水の状況 | ☑ 滲出し、漏水跡、滴水 | □なし | | | |
| | 雅田 | からの網水の水流 | □流水、噴水 | | Γ | 2 | (箇所) |
| | m 43 | | □局所的(施設の一部のみで発生) | ✓ なし | | • | |
| | 周稼= | コンクリートの欠損等 | 全体的(変状が構造物全体にある) | | | 0 | (箇所) |
| | | ****** | 同局所的(施設の一部のみで発生) | □なし | • | | |
| | | 背面の空洞 | ── 全体的(変状が構造物全体にある) | ヹ 不明 | | | |
| 周辺地盤 | | | 局所的(施設の一部のみで発生) | ✓ なし | | | |
| の変状 | 周辺均 | 也盤の陥没ひび割れ | □ | _ | | | |
| | | | □ 目地・ひび割れから背面土砂が流出し | ている可能性がある | | ▽ なし | |
| | 킽 | 背面土砂の流出 | □ 目地・ひび割れから背面土砂が流出し | ている | | | |
| | | | □部分的(表面の50%未満) | マなし | | | |
| | 浮き | | □ 全体的(表面の50%以上) | | | 0 | (m ²)面積 |
| | | | ✓ 部分的(表面の50%未満) | なし | | 21.0 | (m²)面積 |
| | 剥離・ | ・剥落・スケーリング | □全体的(表面の50%以上) | | | 1.0 | (cm)深さ |
| | | 析出物 | □ 部分的(表面の50%未満) | マなし | - | | |
| | (エフロレッセンス・ゲルなど) | | □ 全体的又は鉄筋に沿った部分的(表面 | _ | Г | 0 | (箇所) |
| | | | ☑ 部分的 | 一なし | | | |
| | 錆 | 汁【鉄筋・坑口】 | □全体的 | | Г | 3 | (箇所) |
| ひび割れ | | | ☑ 細骨材露出 | 1 粗骨材露出 | i | | |
| 以外の変状 | | | □ 粗骨材剥離 | コなし | Г | 30.0 | (m ²)面積 |
| | 1 | 摩耗・すりへり | □ 全体的(表面の50%以上) | | - | | (111 / 111 / 194 |
| | | | □ 水理機能・水利用機能への支障有り | | | | |
| | | 漏水【坑口】 | 漏水跡、滲出し、滴水 | 流水、噴水 | | √ なし | |
| | | mu-s-g you - g | ☑ 洗掘深が覆工厚の1/3未満 | 一 | エ厚の1/3 | | |
| | 기 | K路底面の洗掘 | 洗掘深が覆工厚の1/2以上 | コなし | _,, | | |
| | | 鉄筋露出 | 部分的(表面の50%未満) | ✓ なし | | | |
| | | 【鉄筋・坑口】 | □全体的(表面の50%以上) | <u></u> | Г | | (箇所) |
| 測定ス | 方法 | | | | | 24.3 | (27) |
| → P. | 44 | 反発硬度法 | 測定No. R-1 | | | 25.2 | (N/mm^2) |
| | | <u>/</u> 匀値【鉄筋・坑口】 | ▼21N/mm2以上 | | 15N/ | | |
| 圧縮強度 | | 31個【鉄肋・巩口】 设計基準強度比) | _ | -100%未満) | _ | 5%未満) | |
| | | 亚伯德[無效] | □ 18N/mm2以上 □ 13N/mm2~ | | | mm2未満 | |
| | | 平均値【無筋】 と計基準強度比) | | -100%未満) | _ | 5%未満) | |
| | | ドリル法 | 測定No. | | T | 5 | (mm) |
| 古針 / 275 → | 鉄笛神口 | り(測定値または設計 | | | + | 50.0 | (mm) |
| 中性化深さ 【鉄筋・坑口】 | | 残り=鉄筋被りー中性 | | | | 45 | (mm) |
| | | 平均値 | ✓ 中性化残り10mm以上 | - 中性化残り10n | nm未満 | 43 | (mill) |
| 川上 測定ス | 方法 | 工物 區 | E I E 10% > 10.0M | _ 1 1 1 1 2 2 7 1 0 1 | | | |
| ⇒ P. | 46 | | | | | | |

水路トンネルの現地調査(定点調査)票(3/3)

| | 点検担当者の主観的な評価 | | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------------------|--------------------|-----------------------------|-----------|------------|--|--|--|--|--|--|--|
| 対策の必要性 | | | | | | | | | | | | |
| | ①早急に詳細調査を実施し、補修対策を実施する必要有り。 | | | | | | | | | | | |
| | ☑ ②詳細調査を実施し、対策の必要有無を検討するのが望ましい。 | | | | | | | | | | | |
| | [③緊急の対策、調査は必要ない。 | | | | | | | | | | | |
| | 2. 対策必要無し | | | | | | | | | | | |
| | 【特記事項】 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 想定される | 【劣化要因】 | | | | | | | | | | | |
| 主な劣化要因 | 1.外力(塑性圧) | 2.外力(緩み圧) | 3.外力(偏圧) | 4.初期欠陥 | 5.中性化 | | | | | | | |
| ※複数指定可 | 6.塩害 | □ 7.アルカリ骨材反応 | □8.凍害 | □ 9.化学的腐食 | □ 10.摩耗・風化 | | | | | | | |
| | ☑ 11.過荷重(地震含) | 12.近接施工 | 13.支持力不足 | □ 14.その他 | | | | | | | | |
| | 【特記事項】 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | ※14 その他にチェッ | かした場合は、特記事項 | にその内容を必ず記載。 | ナスニと. | | | | | | | | |
| ļ | /ハエエ・ヒッ/ 四代 ノニノノ | した 一個 口 15、19 日中 学 | - C - 21 1/11 C 20 / 10 490 | / W-U0 | | | | | | | | |

28

3.1 現地調査の体制

・ 点検係、記録係、補助係の3人体制を最低単位とする。 (必要に応じて増員する)

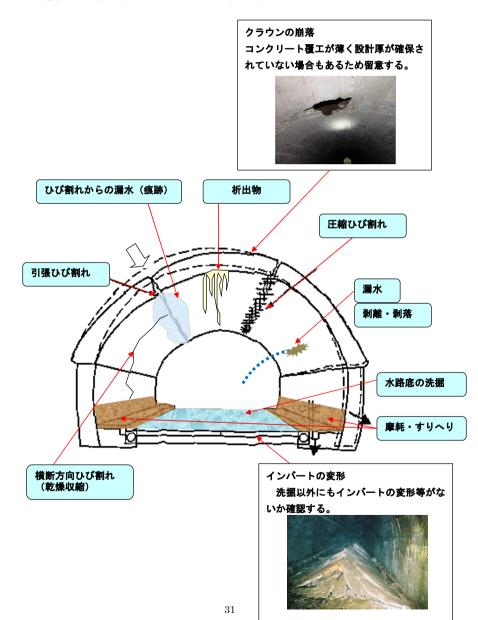
*斜字は条件に応じて持っていくもの

調査員3(補助係) 黒板(小)、黒板消し、チョーク マーキングスプレー、巻尺、下振り リバウンドハンマー、ノギス ヘルメット ウェス、予備乾電池 ストップウォッチ 中性化試験器具 ◆ 脚立(小) ホウキ・デッキブラシ 中性化試験器具 胴長、ウェットスーツ ・ 充電式振動ドリル (コンクリート用) ろ紙(ø 185mm程度) スタッフ、ポール 1%フェノールフタレイン溶液入り霧吹き ・(ノギス)、補修用パテ等 筆記用具 チョーク デジカメ コンベックス 野帳 クラックスケール 点検用ハンマー ガス検知器 図面等資料 調査員2(記録係) 調査員1(点検係)

3.2 現地調査のポイント

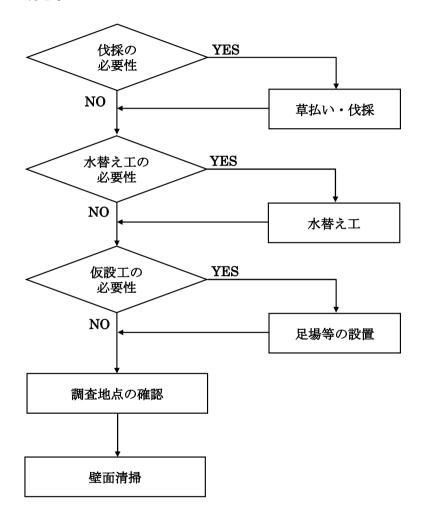
3.2.1 調査の視点

• 覆工全周の変状をチェックする。



3.2.2 事前準備作業

・現地調査に当たっては、必要に応じて以下の準備作業を行う。



(1) 伐採

・施設管理者の了承を得る

(2) 水替え工

- 排水先の確認、浸食対策の実施
- ・ 設置する土のうの安定性確認

(3) 仮設工

- ・梯子等の設置、固定
- ・周辺道路に安全施設(バリケード、看板等)を設置

(4) 調査地点の確認

- ・ 定点の位置情報の把握
- ・プレート等によるマーキング(目印)

(5) 壁面清掃

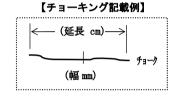
- ・デッキブラシや洗浄機等で壁面清掃
- ・ 底版にある土砂上げ☞ 事前に堆砂状況を把握しておく

3.2.3 チョーキング及び写真撮影

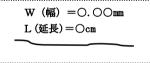
- ひび割れやその他の変状は、トンネル壁面に直接チョークで書き込み、写真で記録しておく。
- ひび割れはなぞらず、ひび割れに沿ってチョーキングする。
- ひび割れ幅測定箇所にひび割れに沿ったチョーキングと 直行するラインを入れてマーキングする。

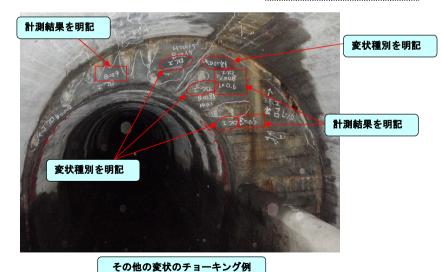


ひび割れのチョーキング例



【ひび割れ記載例】





3.3 変状項目

3.3.1 ひび割れ

(1) ひび割れ幅

目視

最大幅部選定

マーキング

↓ ひび割れ幅計測

最大幅部マーキング

クラックスケールによる計測

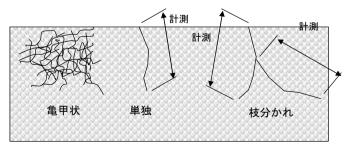




ひび割れ幅とスケールの幅区分を合わせる

(2) ひび割れ延長

コンベックス等で計測する。



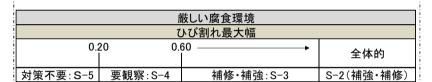
亀甲状のひび割れの場合、全ひび割れの概ねの延長とする

参考 ひび割れ幅の考え方

【鉄筋コンクリート覆工】

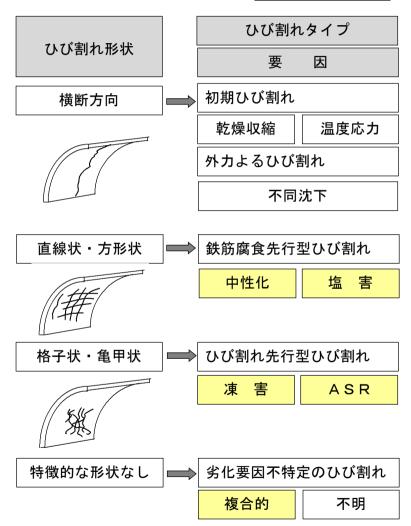
・鉄筋の腐食に対する影響度を考慮した区分

| | 通常の環境 | | | | | | | | | |
|-----------|------------|-----------|------------|--|--|--|--|--|--|--|
| | ひび割れ最大幅 | | | | | | | | | |
| 0.2 | 20 1.0 | 00 | 全体的 | | | | | | | |
| 対策不要: S-5 | 要観察∶S-4 | 補修•補強:S-3 | S-2(補強·補修) | | | | | | | |



(3) ひび割れ形状 (タイプ)

- ・ひび割れ形状は下記より選択する(複数可)。
- ・着色した要因のひび割れは今後も進行する可能性あり。



1) 初期ひび割れ

初期段階で対策すれば進行しない(または緩慢)。

①乾燥収縮ひび割れ、②温度ひび割れ

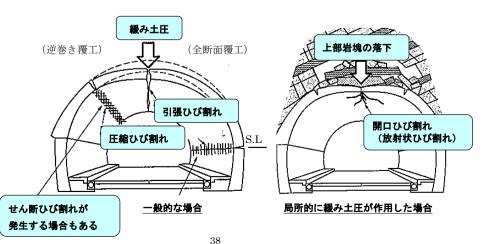
- ・乾燥収縮による場合、スパン中央に生じ、以降は二分割 するように発生する。
- 不同沈下による場合は、繰日部に段差が生じていないか 確認する。



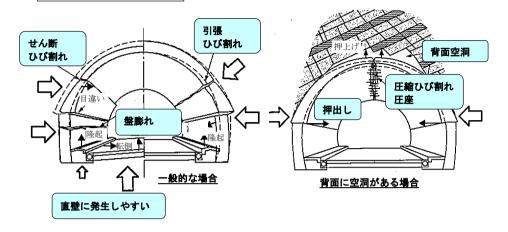
2) 外力によるひび割れ

・外力によるひび割れは、緩み土圧、塑性土圧、偏土圧、 地震、地殻変動等により生じる。

緩み土圧

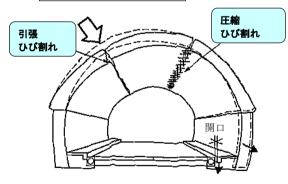


塑性十圧



・側壁あるいはアーチ肩部に水路トンネル縦断方向の引張 りひび割れ(開口ひび割れ)が確認される。

偏土圧





・坑口部のような土被りが小さく地形が傾斜している場合 に発生しやすい。

3) 鉄筋腐食先行型ひび割れ

- ・中性化と塩害により生じる。
- ・ 鉄筋が腐食し、その後ひび割れが生じる。
- ・ 進行性を有する。

形状:線状または方形状



4) ひび割れ先行型ひび割れ

- ・ <u>凍害とASR</u>により生じる。
- 進行性を有する。

①凍害によるひび割れ

エフロレッセンスを伴うことが多い

形状:亀甲状(網目状)

地域性:寒冷地に多い



②ASRによるひび割れ

ゲルの滲み出しを伴うことが多い

※ゲル:ASR反応生成物

形状: 亀甲状 (網目状)

地域性:下図参照



・ 水路トンネルでの事例は少ない。

参考 ASRの地域性

下図の地域はASRが発生する可能性がある。



出典:「複合劣化コンクリート構造物の評価と維持管理計画研究委員会報告書」

2001年(社)日本コンクリート工学会

(4) 進行性の有無

- ・2回目以降の調査が対象。
- ・前回調査の結果を踏まえて進行性を判断する。

前回と今回のチョーキングの色を区分する



(5) ひび割れ規模

- •幅 0.2mm 以上のひび割れ密度が 50cm/m²以上か?
- •50cm/m²以上のブロックが50%以上の場合「全体的」

対象定点(1スパン)

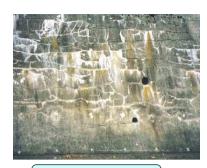


: 1 m² 当り 50cm 以上のひび割れ(幅 0.2mm 以上)があるブロック

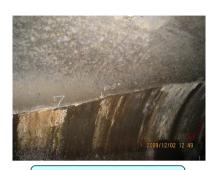
上の例では・・・6ブロック/9ブロック≒67%>50%・・・・全体的

※この考え方はその他の変状についても同じ

(6) ひび割れ付随物







エフロレッセンス(析出物)

※コンクリート中の成分が表面に析出したもの

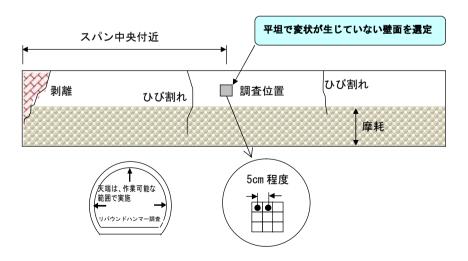
3.3.2 ひび割れ以外の変状

・目視、簡易計測で変状の箇所数、位置・範囲を把握する。

3.3.3 圧縮強度

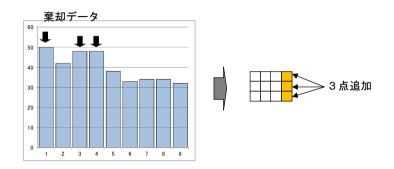
- ・リバウンドハンマーで計測した反発硬度より算定する。
- ・ 9点打撃し平均値を採用する。
- 有効データは平均値±20%の範囲。





参考 測定結果

- ・記録紙式の場合、以下の対応が必要となる。
- ・有効データが9点に満たない場合は調査を追加する。

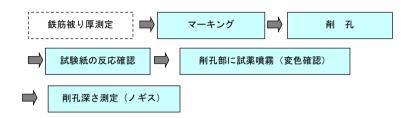


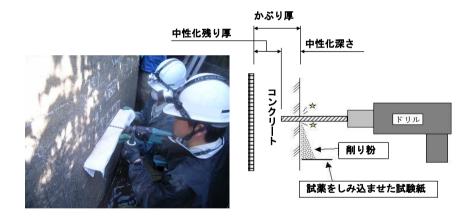
有効データの範囲

| 平均值 | 平均-20% | 平均+20% |
|-----|--------|--------|
| 20 | 16 | 24 |
| 30 | 24 | 36 |
| 40 | 32 | 48 |
| 50 | 40 | 60 |
| 60 | 48 | 72 |
| 70 | 56 | 84 |
| 80 | 64 | 96 |

3.3.4 中性化深さ

- ・ 鉄筋被り厚は調査により把握することが望ましい。
- ・ドリルでコンクリートを削孔し、試薬(1%フェノールフタレイン溶液)をしみ込ませた試験紙の反応から中性化深さを測定する。
- ・調査は5点実施し、平均値を採用する。

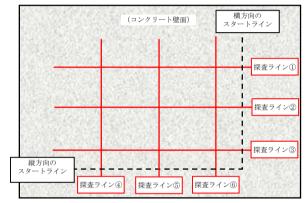


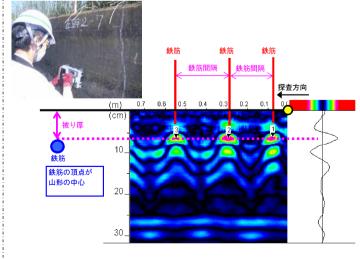


参考 鉄筋被り厚の測定

【手順:電磁波レーダ法の場合】

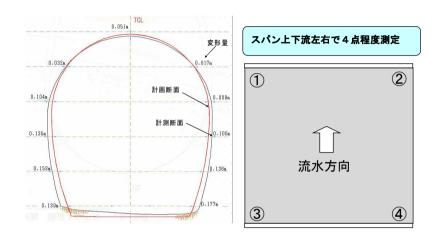
- 測定対象とする配筋と直角方向に探査ライン①~⑥を設ける。
- ・スタートラインを決定し、探査ラインに沿って探査計を 走行させる。
- 探査計の出力波形から鉄筋の径・間隔および被り厚さを 読み取り、記録する。





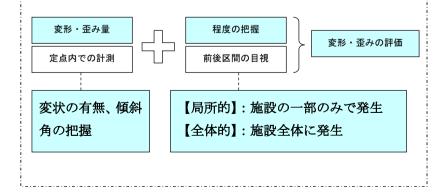
3.3.5 変形・歪み

- ・施設全体について覆工の変形・傾きの有無を確認する。
- ・変形・歪みの最大量(傾斜角)を測定・記録する。
- ・下げ振り、傾斜計、簡易な測量器具等を利用する。



ポイント 調査の視点

・変形、歪みは【変形・歪み量(定点内)】と【変形・歪みの程度(前後区間を含む水路トンネル全体)】について把握する。



3.3.6 周辺地盤の変状

(1) 背面土の空洞化

・点検ハンマーによる打音調査により有無を把握する。

| 音 質 | 空洞化の可能性 |
|----------------|---------|
| カンカン・キンキンなど硬い音 | なし |
| ボコボコのように鈍い音 | あり |



機能診断調査に係る記録様式等

・次頁以降に水路トンネルに係る機能診断調査に係る記録 様式を示す。必要に応じて印刷・使用されたい。

水路トンネルの事前調査票(問診票)

| | 整理番号 | | 調査年月日(今回) | 平成 | 年 | 月 | 日 |
|-------------|-------------|--|-----------------|----|---|-----|-----------------|
| | 地区名 | | (前回) | 平成 | 年 | 月 | 日 |
| | 施設名 | | 記入者 | | | | |
| | 覆工形式※1 | (a) 無筋コンクリート覆工 (b) 鉄筋コン | クリート覆工 (c) 均 | ίΠ | | | |
| | 項目 | 異常の有無、内容 | 容 ^{※2} | | | 異常個 | 听 ^{※3} |
| 構造上の変状 | 覆工 | 1. 異常有り ① | 刺れが見られる |) | | | |
| | 継目部 | 異常有り ①維目部の欠損、ずれ、段差が著しく、漏ル ②維目部のずれ、段差が見られる ③その他の異常が見られる(【特記】 | 水の痕跡がある |) | | | |
| | トンネル上部地盤 | 1. 異常有り ①地すべり、地盤の陥没が発生している ②その他の異常が見られる (2. トンネル上部・周辺の改変 ①土地利用の変化 (③正接施工の有無 (3. 異常取し 【特記】 | |) | | | |
| 水理・水利用上の異常 | 通水性 | 1. 異常有り ①所定の通水量が確保できない ②通水量が安定しない(管理が難しい) ③漏水が発生している ④トンネル内の異常推砂 ⑤側壁・インバートへの水生生物等の付着 ⑥その他の異常が見られる(2. 異常風し 【特記】 | |) | | | |
| | 水位の維持 | 1. 異常有り ①水位の異常上昇が見られる ②水位の異常低下が見られる ③水位が安定しない ④その他の異常が見られる 〔 【 | |) | | | |
| | 通水期間 | 1. 非通水期間であるため断水の必要はない 2. 通水期間中である(通水期間: 3. 通年通水のため断水できない | ~ | | |) | |
| 確認 | 残水状況 | 1. 自然流下によりトンネル内に残水はない 2. トンネル内に残水有、ポンプ排水が必要(例 | 曳水量: | | |) | |
| 部 項 目 | 機材等の搬入 | 1. 人肩で可能である 2. クレーン等が必要である 3. 特殊な仮設が必要 | | | | | |
| | 過去の 調査実績 | 1. 調査実績なし 2. 調査実績あり(留意点: | | | |) | |

※1:覆工形式に○印をつけて、該当する項目について問診する。

※2:異常の有無、内容は、該当する番号に○印をつける。

※3:異常個所は、測点、又は大まかな位置を記入する。

水路トンネルにおける水利用機能・水理機能の問診票

| | 整理番号 | | 調査年月日 | 平成 | 年 | 月 | 日 | | | | |
|-------|---|--|----------------------|------|------|---|---|--|--|--|--|
| | 地 区 名 | | 記入者 | | | | | | | | |
| | 対象施設名 | | 形態 水路トンネル | | | | | | | | |
| 核 | 幾能・性能項目 | 異常の有無、内容 | | | | | | | | | |
| 水利用機能 | 利用用 保守管理 ・保守管理に必要な施設(坑口までの管理用道路、除廳(スクリーン)等)が不足している2. 異常なし【特記事項】 | | | | | | | | | | |
| 水理機能 | 通水性 | 1. 異常あり ・所定の流量流下時に不安定な流況が生じる ・所定の流量流下時に余裕高が不足するります。水路の沈下や変形、異常堆砂等により、多・漏水が生じている(又は漏水が疑われる個・必要な水位が確保できていない 2. 異常なし 【特記事項】 | 端付近まで水位な で全に水が流れな | | | | | | | | |
| nc | 放余水性 | 1. 異常あり ・放流施設の不具合により豪雨、洪水時等の ・余水放流施設が不足している 2. 異常なし 【特記事項】 |)余水放流が適切 | にできな | el v | | | | | | |

水路トンネルの現地踏査票

| 整理番号 | | 調査年月日 | 平成 年 月 日 | | | | | |
|-------------|---|-----------------|----------|--|--|--|--|--|
| 地区名 | | 記 入 者 | | | | | | |
| 施設名 | | | | | | | | |
| 覆工形式※1 | (a) 無筋コンクリート覆工 (b) 鉄筋 | コンクリート覆工 (c) 坑口 | | | | | | |
| | 変状項目 | 変状の程度 | 変状箇所※2 | | | | | |
| | ひび割れ・進行性 曲げひび割れ等の異常なひび割れ | | | | | | | |
| 構造的な 安定性 | 欠損・崩壊 傾き・変形・歪み 側壁・インバートの変形 | | | | | | | |
| | 鉄筋の露出 | | | | | | | |
| | 不同沈下 | | | | | | | |
| | コンクリート表面の剥落・欠損 | | | | | | | |
| | 変色などその他の変状 | | | | | | | |
| | 摩耗・骨材の露出 | | | | | | | |
| 材料的劣化 | 析出物 | | | | | | | |
| | 漏水・ひび割れ等からの漏水痕跡箇所 | | | | | | | |
| | 漏水・漏水痕跡 (異常な湿気・砂の吸出し) | | | | | | | |
| | 欠損・段差・破断 | | | | | | | |
| 継目の劣化 | 欠損・崩壊・鉄筋の露出 | | | | | | | |
| 堆砂 | 通水阻害を起こすような堆砂 | | | | | | | |
| 堆砂トンネル | 地盤の崩落、地すべり | | | | | | | |
| 上部地盤 | 地盤の陥没の痕跡 | | | | | | | |
| | 現地調査箇所 (現地調査を行うのに適当な箇所) | | | | | | | |
| 評価 | 詳細調査箇所 (補修対策の必要有無を判定するための詳細 調査が必要な箇所) | | | | | | | |
| | 補修対策の必要箇所 (早急に補強・補修工事を必要とする箇所) | | | | | | | |
| 特記事項 | | | | | | | | |
| ツ. 車 マ形 老 放 | ()) 医睫色斑束点速点 数状态头流振荡口) | | | | | | | |

^{※1:} 覆工形式等 (a.b.c) には○印をつけて、該当する変状項目について調査を行う。

^{※2:}変状箇所は、路線測点番号、施設番号、調査平面図に付した番号等のいずれかを記入し、今後の経年調査で場所が 照合できるようにする。

コンクリート覆工形式の水路トンネル及び坑口の現地調査(定点調査)票(1/3)

| 整理番号 | | | | | ā | 周査年月E | 3 | | | | |
|--------------------|--------------|------------------------------------|-----------------------|-------------|---------------------|------------------|---------------------------|--------------------|--------------|------|--|
| 地区名 | | | | | = | 记入者 | | | | | |
| 施設名 | | | | | | | | | | | |
| 地施定土覆劣の(名名を登場の) は、 | 16号 | | | | | | 点表示等) ~No ○+○ | | | | |
| 土被り | | | m (トンネル掘削径: | | m) | 例: No.O+O~No.O+O | | | | | |
| 地施定土 覆劣の(劣性の | | (a)無筋コン | | (b) 鉄筋コンクリー | -ト覆工 | | (c)坑口 | | | | |
| | Τ' | | 劣化要因 | | | 評価 | | 性のある劣化要因 | 等) | | |
| | 1 | 塑性圧(◎・○ | | | -+ | p., jac | 1746 7 20 710 | 12.7070771022 | 47 | | |
| | 外点 | 爰み圧(◎・○ | | | | | † | | | | |
| | 部上 | <u> </u> | | | | | 1 | | | | |
| | - | 華耗風化(○・. | | | _ | | 1 | | | | |
| | . ⊢ | 字柱風化(O・Δ· | | | -+ | | + | | | | |
| | l H | | | | - | | - | | | | |
| | اغث⊢ | ASR(O·△·な | | | | | - | | | | |
| | I ' [| 東害(○・△・な | | | -+ | | 1 | | | | |
| | I ⊢ | 塩害(○・△・な | | | | | - | | | | |
| == + +0 /- | - | 化学的腐食(C |)·∆·なし) | | | | | | | | |
| 調査部位 | 規格 | | | | 調査施 | 投概要図 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 第四 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| データ | スケッ | チ | | | □ あり | |] なし | No. | | | |
| | 写真 | | | | □ あり | |] なし | No. | | | |
| | | 変 | 状 項 目 | | | | 変 | 状の状態・程度 | | | |
| | 構造的 | 的な安定性評価 | 西(『評価)【無筋・鉄筋】 | | | | | | | | |
| | | 割れ段差 | | | □ あり | | なし | | | | |
| | | | | | | 割れ無し | □ ひび割れあり | □ 開口ひび割 | h. | | |
| | | | | 無筋 | | | ・段差ひび割れ | | | | |
| | 7 | 割れ最大幅 | | JAK ADJ | 一部分 | | 一 全体的 | | | | |
| | ※ () | の値は厳しい度 | | | | 割れ無し | <u></u> | | | | |
| | 填填 | の場合に適用す | 1 a. | 鉄筋・坑口 | _ | | □ 0.2mm以上 | - ·1 0 + :# | □ 1.0mm以上 | | |
| | | | | | 0.2n | | _ | | - | | |
| | | | | | (0.2 | mm未満) | ☐ (0.2mm以上 | | □ (0.6mm以上) | | |
| | | | | | | | | 実測値 | | (mm) | |
| | 最大 | 幅ひび割れの | 延長 | | | | | | | (m) | |
| | | | 1.曲げによる不連続な | ひび割れ | □ あり | | □なし | ひび割れ最大幅 | | (mm) | |
| | | | 【無筋】 | | □ 全体 | *的 | | | | | |
| | | | 2.せん断による食い違いや段差のあ | | □ あり | | □なし | ひび割れ最大幅 | | (mm) | |
| ひび割れ | | るひび割れ【無筋】 | | | □ 全体 | *的 | | | | | |
| | | | 3.継目間中央や部材解放部の重 | | □ あり | | □なし | ひび割れ最大幅 | | (mm) | |
| | | | ひび割れ【鉄筋】 | | □ 全体 | *的 | | , | | | |
| | | び割れタイプ 《複数指定可 《独数指定可 【鉄筋】 | | ないひび割れ | □ あり | | □ なし | ひび割れ最人幅 | | (mm) | |
| | | | | | 全体 | *的 | | | | | |
| | | | | | □ あり | | □なし | ひび割れ最大幅 | | (mm) | |
| | | | 5.格子状・亀甲状など(| のひび割れ | □ 全体 | *的 | | | | | |
| | | | 【鉄筋】 | | | い腐食環境 | ŧ | | | | |
| | | | 6.鉄筋に沿ったひび割 | tn . | しあり | | - つなし | ひび割れ最大幅 | | (mm) | |
| | | | 【鉄筋・坑口】 | 10 | □ 全位 | | | 0 0 11/1 1427 1/11 | | | |
| | 准经 | 性(前回との変 | | | | | | | | | |
| | | | 15) 「割れ幅0.2mm以上)【鋭 | 上位,按口【 | □あり | | | 全体的 | | | |
| | | | | NAT MICH I | □ _{=10.75} | . 43 | | 王14的 なし | □ 40 | | |
| | _ | | f出物、錆汁、浮き) レ | | _ | ul := 4-04 | | | | | |
| | NO | 割れからの漏れ | N | | | 出し、漏水跡 | 、 | 流水、噴水 | □なし | | |

54

コンクリート覆工形式の水路トンネル及び坑口の現地調査(定点調査)票(2/3)

| | 変状項目 | 変状の状態・程度 | | | | | | |
|---------------|-------------------------|---|--------------|--|--|--|--|--|
| | 多 仏頃日 | ※いずれか該当するチェックボックスに印をつけ、右欄に計測値を記入する。 | | | | | | |
| 不同沈下 | 構造物の沈下・蛇行 | □ 局所的(施設の一部のみで発生) □ なし | | | | | | |
| 111-17/6 1 | 14年1907701 18611 | □ 全体的(変状が構造物全体にある) | | | | | | |
| | 継目の開き | □ 局所的(施設の一部のみで発生) □ なし | | | | | | |
| | 4E E 42 IVI C | □ 全体的(変状が構造物全体にある) | (mm) | | | | | |
| | 継目の食い違い | □ 局所的(施設の一部のみで発生) □ なし | | | | | | |
| | | □ 全体的(変状が構造物全体にある) | (mm) | | | | | |
| 継目 | 止水板の破損 | <u></u> あり <u></u> なし | (箇所) | | | | | |
| | 継目からの漏水の状況 | □ 滲出し、漏水跡、滴水 □ なし □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ | | | | | | |
| | | 流水、噴水 | (箇所) | | | | | |
| | 周縁コンクリートの欠損等 | □ 局所的(施設の一部のみで発生) □ なし | / Andre pr \ | | | | | |
| | | □ 全体的(変状が構造物全体にある) | (箇所) | | | | | |
| | 背面の空洞 | □ 局所的(施設の一部のみで発生) □ □ なし □ 全体的(変状が構造物全体にある) □ 不明 | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 周辺地盤 の変状 | 周辺地盤の陥没ひび割れ | □ 局所的(施設の一部のみで発生) □ なし □ 全体的(変状が構造物全体にある) | | | | | | |
| | | □ 目地・ひび割れから背面十砂が流出している可能性がある □ なし | | | | | | |
| | 背面土砂の流出 | □ 目地・ひび割れから背面土砂が流出している | | | | | | |
| | | □ 部分的(表面の50%未満) □ なし | | | | | | |
| | 浮き | □ 全体的(表面の50%以上) | (m²)面積 | | | | | |
| | | □ 部分的(表面の50%未満) □ なし | (m²)面積 | | | | | |
| | 剥離・剥落・スケーリング | □ 全体的(表面の50%以上) | (cm)深さ | | | | | |
| | 析出物 | □ 部分的(表面の50%未満) □ なし | | | | | | |
| | (エフロレッセンス・ゲルなど) | □ 全体的又は鉄筋に沿った部分的(表面の50%以上) | (箇所) | | | | | |
| | 錆汁【鉄筋·坑口】 | □ 部分的 □ なし | | | | | | |
| マリマ (中川上) | 到71【欧州/J - 为C口】 | □ 全体的 | (箇所) | | | | | |
| ひび割れ 以外の変状 | | □ 細骨材露出 □ 粗骨材露出 | | | | | | |
| | 摩耗・すりへり | □粗骨材剥離□なし | (m²)面積 | | | | | |
| | | □ 全体的(表面の50%以上) | | | | | | |
| | | □ 水理機能・水利用機能への支障有り | | | | | | |
| | 漏水【坑口】 | □漏水跡、滲出し、滴水□流水、噴水□なし | | | | | | |
| | 水路底面の洗掘 | □ 洗掘深が覆工厚の1/3未満 □ 洗掘深が覆工厚の1/3以上~1/2未満 | | | | | | |
| | | □ 洗掘深が覆工厚の1/2以上 □ なし | | | | | | |
| | 鉄筋露出 【鉄筋・坑口】 | □ 部分的(表面の50%未満) □ なし | /##==#`\ | | | | | |
| | 「飲物・刈口」 | 全体的(表面の50%以上) | (箇所) | | | | | |
| | 反発硬度法 | 測定No. 測定No. | (N/mm²) | | | | | |
| | 亚特法[外统 共口] | | | | | | | |
| 圧縮強度 | 平均値【鉄筋・坑口】 (設計基準強度比) | | | | | | | |
| | 平均値【無筋】 | □ 18N/mm2以上 □ 13N/mm2以上~18N/mm2未満 □ 13N/mm2未満 | | | | | | |
| | (設計基準強度比) | (100%以上) (75%以上100%未満) (75%未満) | | | | | | |
| | ドリル法 | 測定No. | (mm) | | | | | |
| 中性化深さ | 鉄筋被り(測定値又は設計 | | (mm) | | | | | |
| 鉄筋 坑口】 | 中性化残り=鉄筋被りー中 | | (mm) | | | | | |
| | 平均値 | □ 中性化残り10mm以上 □ 中性化残り10mm未満 | | | | | | |
| | | | | | | | | |

55

コンクリート覆工形式の水路トンネル及び坑口の現地調査(定点調査)票(3/3)

| | 点検担当者の主観的な評価 | |
|--------|---|-------|
| 対策の必要性 | 生 1.対策必要有(以下から選択) | |
| | □ ①早急に詳細調査を実施し、補修対策を実施する必要有り。 | |
| | □ ②詳細調査を実施し、対策の必要有無を検討するのが望ましい。 | |
| | □ ③緊急の対策、調査は必要ない。 | |
| | □ 2. 対策必要無し | |
| | [特記事項] | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 想定される | | |
| 主な劣化要因 | 3 ┃ | 性化 |
| ※複数指定可 | | ₹耗•風化 |
| | □ 11.過荷重(地震含) □ 12.近接施工 □ 13.支持力不足 □ 14.その他 | |
| | 【特記事項】 | |
| | 10107-72 | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

水路トンネル(無筋コンクリート覆工)の施設状態評価表

| 選 東 地 点 | Ē | ; | ig. | | 8 | | | | 評 価 者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----|-----|-----------|------------|---------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------------|---------------------------------|-------------------|-------------|-----------------|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-------------------------|---------|--|---|--|
| 日本 | | | | 番 | _ | | | | 調 査 地 点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別 日本 | | | | | _ | 評価項目 | | 評 | 直区分 | | | 評価の流れ | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| # 不開文下 様 議会の立下、 使行 類 原所的 注3) | | | | | | 健全度ランク | S-5 | S-4 | S-3 | S-2 | | 評価 | 施設制 評価 注7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 地圧に | よる | 変状進 | 行の | 可能性による健全度の区分 | 「地圧による変状進行の可 的な安定性から健全度を評 | 能性による健全度の区分に P値する。 | ・ ・関する補表」に基づいて、± | 也山等の外部条件及び構造 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| # 日安校 #日安校 #日安校 #日安校 #日安校 #日安校 #日安校 #日安校 | | o | 7 | 同汶丁 | | 模造物の次下、整行 | 無 | | 局所的 注3) | 全体的 注3) | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DU影れ | 要 | の変 | # | 目変わ | ę | 練目からの湯水又は止水板の損傷 | 無 | 滴水 | 流水、噴水 止水板の損傷 | | - | _ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DUSHADA 20 全体的 注2 全体的 注2 全体的 注2 全体的 注2 日本 | | 用記 | 刀地盤 | の変り | ŧ. | 震辺地盤の洗下・路没・ひび割れ | 無 | 局所的 注3) | 全体的 注3) | | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (新世徳、丹参) | | | | 7 | ひび割れ | | · | ひび割れの有無 | 無 | 部分的 注2) | 全体的 注2) | | | | İ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 | | | | | | ひび割れ付随物 (析出物、評き) | 無 | 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ひび記れ以外 のまた 万巻 類 節分的 注2) 全体的 注2) 全体的 注2) 全体的 注2) 音 音 音 音 音 音 音 音 音 | | | vv | | | ひび割れからの漏水 | # | 滴水 | 流水、噴水 | | _ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| □ 0-0 (| | 造物 | | ひび割れ以外の劣化 | JUSHIN QIN | 71.70kmin (*) 84 | 71.70kii da 1914 | 7.4.7.F.MII 21. CJ 65. | | ひび割れ段差 | # | | | 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ## | 内 | | U | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| # 新品物(エアル・セル・ドルドルビ) # 知以館分析の注2) 全体的 注2) (5・4の番組以外) 全体的 注2) (5・4の番組以外) 全体的 注2) (5・4の番組以外) 全体的の場合、1ランクタウン 注3) | . | 体の | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 利羅・利落 無 部分的 注2) 全体的 注2) | | | - | |
| 第文は 極条対義出 極条対義出 延条対論制 全は約の場合、1ラングダウン 注4) 全は約の場合、1ラングダウン 注4) 決版 | | 料的 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 全体的 注2) | | | |
| 全体的の場合、「ランクダウン 注3) | | 劣 | | | | ※お・ナ リヘリ | 無又は 組骨材露出 | 租骨材露出 | 粗骨材剥離 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1/3末 1/3以上 1/2以上 1/2以上 1/2以上 1/2以上 1/3以上 1/3 | | | | | 10 | | | | 本代・リ グ・ヘッ | | 全体的の場合、 | 1ランクダウン 注9) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京発療性 18Vmm以上 13Vmm以上 13Vmmux 13Vmm | | | | | | | 洗锯 | 無 | 洗掘深が覆工厚の 1/3未満 | 洗掘深が覆工厚の 1/3以上~1/2未満 | 洗钢深が覆工厚の 1/2以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上) (次数 名中华亚达上 1050 宋清) (次) | | | | В | 縮強度 | ŧ. | 灰発硬度法 (圧縮強度換算)※設計強度 18N/mm2の場合 | 18N/mm2以上 (設計基準強度比100%以 上) | 18N/mm2未満 (設計基準強度比75%以 | 13N/mm2未満 (設計基準強度比75%未 滅) | | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- 注1) 本表は、無筋コンクリート覆工の水路トンネルにおける基本的な評価項目と評価区分を示したものであるため、必要に応じて評価項目の追加や評価区分の設定を行うこと。
- 注2) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
- 注3) 「周辺地盤の変状」などにおける「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
- 注4) 変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
- 注5) S-1の評価は、この評価表によらず評価者が技術的観点から個別に判定する。
- 注6) 圧縮強度及び化学的腐食の調査は、必要に応じて実施する。
- 注7) 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。
- なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これらを考慮して評価する。
- 注3) 評価の判定の考え方の欄には、「変状別評価」から「主要因別評価」を下すもととなった変状別評価項目、及び「主要因別評価」から「施設状態評価」を下すもととなった主要因別評価項目を記入し、その判定の考え方を記述する。特に、最も健全度が低い評価項目が複数ある場合には判定の考え方が明確となるよう省象すること。
- 注9) 摩耗・すりへりの1ランクダウンについては、水理機能・水利用機能に支障がなく、他の変状別評価項目がS-4以上であれば、1ランクダウンは行わないものとする。

水路トンネル(鉄筋コンクリート覆工)の施設状態評価表

| 地 | | E & | | | | 評価年月日 | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------------|---------|---|----------------------------------|---|---------------------------------------|--------------------------------|--------------------|--------------------------------------|--------------------------|------------------------|--|--|--|---------------------------|--------------------------------|--------------------|--------------------|--|
| 施 | | | | | | 評価者 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 調査地点 | | | | | | | | | | | | | |
| Æ / | 激 会 番 4 4 | 單合与 | | | | (測点等) | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 点 調 査 番 号 | 評価項目 | | 評化 | 面区分 | | | 評価の流れ- | - | | | | | | | | | | |
| | | | 健全度ランク | S-5 | S-4 | S-3 | S-2 | 変状別 評価 | 主要因別 評価 注4) | 施設状態 評価 注7) | | | | | | | | | |
| | 地圧に | こよる変状進行 | の可能性による健全度の区分 | 「地圧による変状進行の び構造的な安定性から | 可能性による健全度の区 建全度を評価する。 | 分に関する補表」に基づ | いて、地山等の外部条件及 | ı | | | | | | | | | | | |
| 外部 | の他 | 不同沈下 | 構造物の洗下、蛇行 | ## | | 局所的 注3) | 全体的 注3) | ı | | | | | | | | | | | |
| 要因 | 変 | 維目変状 | 総目からの漏水又は止水板の損傷 | 無 | 滴水 | 流水、噴水 止水板の損傷 | | ı | | | | | | | | | | | |
| | 周辺 | | 周辺地盤の沈下-路没-ひび割れ | 無 | 局所的 注3) | 全体的 注3) | | - | | | | | | | | | | | |
| | | ひび割れ | タイプ: 初期ひび割れ 形状: 総目間中央や部材解放部の垂直ひび割れ 原因: 乾燥収練: 温度広力 | 無又は 最大ひび割れ幅 0.2mm未満 | 最大ひび割れ幅 0.2mm以上~1.0mm未 進 | 最大ひび割れ幅 1.0mm以上 | S-3に該当するものが 全体的 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 原因・乾燥収穫・温度応力 947:第代因子不特定のひび割れ 形 形、状 特徴の記数がを示さないひび割れ 状 原因・症状が複合的であり劣化因子を特定できないも | 無又は 最大ひび割れ幅 0.2mm未満 | 最大ひび割れ幅 0.2mm以上~1.0mm未 満 | 最大ひび割れ幅 1.0mm以上 | S-3に該当するものが 全体的 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | と タイプ:ひび割れ先行型ひび割れ 幅 形状:格子状・亀甲状などのひび割れ 原因:ASRや漢書などの劣化原因 | 無又は 最大ひび割れ幅 0.2mm未満 | 最大ひび割れ幅 0.2mm以上~1.0mm未 満 | 最大ひび割れ幅 1.0mm以上 | S-3に該当するものが 全体的 | |
| | | | タイプ: 鉄筋腐食先行型ひび割れ 形状: 鉄筋に沿ったひび割れ 原因:中性化・塩害 | 無 | | 有 | S-3に該当するものが 全体的 | _ | | | | | | | | | | | |
| | | | 進行性(前回との変化) | | 有りの場合 | 1ランクダウン | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ひび割れ規模(ひび割れ幅0.2mm以上) | 無 | 部分的 注2) | 全体的 注2) | | | | | | | | | | | | | |
| | 近物自体の材料的な劣化 | | ひび割れ付触物 (析出物、錆汁、浮き) | 無 | 有 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ひび割れからの漏水 | 無 | 滴水 | 流水、噴水 | | | | | | | | | | | | | |
| 内 部 | | | 浮き | 無 | 部分的 注2) | 全体的 注2) | | | | | | | | | | | | | |
| 要 | | | 剥離·剥落 | # | 部分的 注2) | 全体的 注2) | | | - | | | | | | | | | | |
| 因 | | | | | な出 | | | | 析出物(エフロレッセンス・ゲルなど) (ひび割れを含むものを除く) | 無又は部分的 注2) (S-4の場合以外) | 全体的又は鉄筋に沿っ た部分的 注2〉 | | | | | | | | |
| | | | | 錆汁(ひび割れを含むものを除く) | 無又は部分的 注2) | 全体的 注2〉 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 摩耗・すりへり | 無又は 細骨材露出 | 粗骨材露出 | 粗骨材剥離 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 全体的の場合、 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 洗掘 | 無 | 洗掘深が覆工厚の 1/3未満 | 洗掘深が覆工厚の 1/3以上~1/2未満 | 洗掘深が覆工厚の 1/2以上 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鉄筋露出の程度 | 無 | | 部分的 | 全体的 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 反発硬度法(鉄筋) (圧縮強度換算)※設計強度 21N/mm2の場合 | 21N/mm2以上 (設計基準強度比100% 以上) | 15N/mm2以上~ 21N/mm2未満 (設計基準強度比75%以 上100%未満) | 15N/mm2未滿 (設計基準強度比75% 未滿) | | ı | | | | | | | | | | | |
| | | 中性化 | ドリル法 (中性化残りで判定) | 残り10mm以上 | | 残り10mm未満 | | _ | | | | | | | | | | | |
| (評価 | の流れ | における、主要 | 医別評価及び施設状態評価の判定の考え方 注8) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- 注2)「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
- 注3)「周辺地盤の変状」などにおける「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。

注1) 本表は、鉄筋コンクリート覆工の水路トンネルにおける基本的な評価項目と評価区分を示したものであるため、必要に応じて評価項目の追加や評価区分の設定を行うこと。

- 注4) 変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
- 注5) S-1の評価は、この評価表によらず評価者が技術的観点から個別に判定する。
- 注6) 圧縮強度及び化学的腐食の調査は、必要に応じて実施する。
- 注7) 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。
- なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これらを考慮して評価する。
- 注8) 評価の判定の考え方の欄には、「変状別評価」から「主要因別評価」を下すもととなった変状別評価項目、及び「主要因別評価」から「施設状態評価」を下すもととなった主要因別評価項目を記入し、 その判定の考え方を記述する。特に、最も健全度が低い評価項目が複数ある場合には判定の考え方が明確となるよう留意すること。
- 注8) 摩耗・すりへりの1ランクダウンについては、水理機能・水利用機能に支障がなく、他の変状別評価項目がS-4以上であれば、1ランクダウンは行わないものとする。

水路トンネル(坑口)の施設状態評価表

| | | | 評価項目 | | 104 | (測点等) | | Π. | 評価の流れ- | _ | | |
|--------|--------------------------|----------|---|------------------------------|---|--|----------------------------|-----------|--------|----|--|--|
| _ | | | | | | | | 遊状別 | 主要因別 | 施服 | | |
| | 精造耐力に直接影響する現象 | | 侵全度ランク 想定以上の上載荷盒が作り | S-5 | S-4 | S-3 | 8-2 | 29/6 | (全7) | 29 | | |
| | | 55 | たことによる変数の代表的 パターン 地変や近接加工で低土がない で等、過ぎな高重圧が進越し 頻生する。 | | | 大統立 新用用 大統一 大統一 大統一 大統一 大統一 大統一 大統一 大統一 | S-3/LIX 4 F 6 6-00/4-1439 | | | | | |
| 外部要因 | 耐力に直接影響する現 | 創れに関する評価 | の 第二時の ひが新れ 図 周島方側に生じるひが乗れま ンネルの変変性に大きな影響 及ぼさない。 | DO NH-MA 2mm all X is DO NH- | 原工時の温度は力等 で発生した機能しび勢が | | | _ | - | | | |
| | | | 地山の不安定性の評価 | 坑口付近の地形が地すべり地形に | ある場合は1ランクダウンとする。注3) | | | | | | | |
| | | | L | | 施工時の記録 | 施工時の記録で周辺地表の沈下 | や陥没などがあった場合は1ランクタ・ ・ | カンとする。注3) | | | | |
| | | 維 | 円周方向の総目の 開口・食い違い・段差 | ps. | 部分的 注4) | 全体的 注4) | | | | | | |
| | | B | 円周方向の総目の 濁水・止水板の損傷 | 200 | 滴水 | 流水、噴水 止水板の損傷 | | | | | | |
| | | 周辺 | 地盤の法下・指没・ひび割れ | 無 | 周頭的 注印 | 全体的 注(6) | | | - | | | |
| | | 地盤 | 背面土砂の流出 | #8 | 目地・ひび割れから背面土砂が流 出している可能性がある。 | 目地・ひび割れから背面土砂が流 出している。 | | _ | | | | |
| | | ಬಜ | 種工の材料的な劣化 タイプ: ひび刻れ先行型ひび刻れ 形状: 格子状・亀甲状等のひび割れ 原因: ASRや漢書などの劣化原因 | 無又は 最大ひび刻れ幅 0.2mm未満 | 最大ひび割れ幅 注5) [0.2mm以上~0.5mm未満] 0.2mm以上~1.0mm未満 | 最大なび割れ幅 注5) [0.5mm以上] 1.0mm以上 | S-3/二駄当するものが 全体的 | | | | | |
| | | 割れ | 種工の材料的な劣化 タイプ: 鉄筋腐食先行型ひび割れ 形状: 鉄筋に沿ったひび割れ 原因: 中性化・塩害 | Æ | | 有 | S-3/1版当するものが 全体的 | | | | | |
| | 村 料 | | 浮き | 無 | 部分的 注4) | 全体的 注4) | | | | | | |
| | 特別化によ | | 制能•制落 | # | 部分的 注4) | 全体的 (主4) | | | | | | |
| 内 | による現 | ည ည | 析出物(エフロレッセンス・ゲルなど) (ひび終れを含むものを除く) | 無叉は部分的 注4) (S-4の場合以外) | 全体的又は鉄筋に沿った部分的 注4) | | | | | | | |
| 都要因 | 現象 | び割れ以外の劣化 | 新汁(Uび割れを含むものを除く) | 無又は部分的 注4) | 全体的 注4) | | | - | - | | | |
| io. | | 0 % | 液水 | # | 潜水跡、滲出し、油水 | 20.4、根水 | | | | | | |
| | | 16 | 洗掘 注10) | 無 | 洗掘深が覆工厚の 1/3未満 | 洗提深が覆工厚の 1/3以上~1/2未満 | 美護派が覆工厚の 1/2以上 | | | | | |
| | | | 鉄筋露出の程度 | 9 7. | | 鉄筋が「部分的」に開出 | 鉄筋が「全体的」に霧出 断面欠損、構造機能低下 | | | | | |
| | 圧極 | 強度 | 反発硬度法 (圧縮強度終算) ※設計強度 21N/mm2の場合 | 21N/mm2以上 (設計基準強度比10%以上) | 15N/mm2以上~ 21N/mm2未滿 (股計基準減度比 76以上1069未凋) | 15N/mm2未満 (設計基準協度比75%未満) | | - | | | | |
| | Φt | 生化 | ドリル法(中性化残り) | 残り10mm以上 | | 残り10mm未満 | | - | | | | |
| TF (Bo | 圧縮強度 中性化 事の流れにおける、 | | 主要因別評価及び施設状態評価の利 | 東の考え方)注(1) | | | | | | | | |

- 注2) 本表は、坊口における基本的な評価項目と評価区分を示したものであるため、必要に応じて評価項目の追加や評価区分の設定を行うこと。 注3) 「1ランクダウン」については、1 変状項目あたり1回のみ有効であり、複数の「1ランクダウン」があってもランクダウンは1階級のみとする。
- 注4) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
- 注5) ひび割れ幅における(0.6m)は、厳しい痛食環境の場合薬用する。 注6) 「地館の次下・格沙・ひび割れ」における「局所的」とは総数の一郎で当該変快が生じている状態を示し、「全体的」とはそれが構造物金体に及んでいる状態を示す。
- (20) 「金融が及り、「金融では「大きない」というでは、「大きない」というない。 「金融が成り、「大きない」とは、「大きない」というでは、「大きない」というない。「大きない」というない。「大きない」というない。「大きない」というない。「大きない」というない。「大きない」というない。「大きない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」といきない。「ない」というない。「ない」とい。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」というない。「ない」」というない。「ない」」というない。「ない」は、「ない」」というない。「ない」というない。「ない」」というない。「ない」」というない。「ない」は、「ない」」といっない。「ない」」というない。「ない」というない。」は、「ない」」というない。「ない」」というない。「ない」」といっない。「ない」」というない。「ない」」というない。「ない」」というない。「ない」」は、「ない」」といっない。」は、「ない」」といっない。「ない」」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない」」」は、「ない」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない」」は、「ない、「ない」」」は、「ない、「ない」」」は、「ない

- (20) 「いか知るい、という知識はおから 計画など 大利の経過が立場である。 20) 圧縮機能及び中性でして学的機能の関連は、必要に応じて実践する。 注10) 実施とはトンネルのインベートが加水で上がによって深くなべた機能を示す。 注11) 評価の程度の表えの機能は、従来が利用が必ら生態があれる。 その判定の考え方を記述する。特に、最も健全度が低い評価項目が複数ある場合には判定の考え方が明確となるよう留意すること。